

今後の入学者選抜方法等の在り方についての検討プロセス

1 これまでの検討プロセス

平成28年度入学者選抜の改善を踏まえ、改善の前後における受検生の動向を把握し、分析する。

【平成28年度】

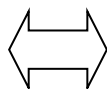
- 1 平成26年度及び平成27年度における調査結果の分析
- 2 あらたなアンケート調査（受検意向調査）の検討
- 3 今後の入学者選抜の在り方の検討

2 今後の検討プロセス

【平成29年度～】

- 専門部会による改善案検討
 - ・ あらたなアンケート調査（受検意向調査）の実施及び分析
 - ・ 今後の入学者選抜の在り方の検討
（受検動向調査のまとめ及びあらたなアンケート調査結果を含む）
 - ・ 外国人の特別入学者選抜を含む特別入学者選抜制度の検討

- 専門部会
 - ・ アンケート調査（受検生の意向）集計及び分析
 - ・ 今後の入学者選抜の在り方の原案検討等



- 協議会（本会議）
 - ・ アンケート調査結果の検討
 - ・ 今後の入学者選抜の在り方の検討

<専門部会の構成>

- 専門部会には主査1名を置く。協議会の委員のうち公立高等学校代表の中から1名をこれに充てる。
- 中学校関係者5名（校長1・教頭2・教諭2）
- 高等学校関係者5名（校長1・教頭2・教諭2）

平成28年度受検動向調査の結果分析について

- 1 県内の全公立中学校の3年生1クラスを抽出して調査し、回答を得られたサンプル数は、9,688名分であり、平成28年3月の中学卒業者数51,844名の18.7%にあたる。
なお、各学校1クラスを抽出しての調査のため、学区ごとのサンプル数の割合が、学区ごとの卒業者数の割合と等しくなるよう、サンプルに比率を掛けて算出したものを併せて提示した。
- 2 前期選抜を受検した者は7,558名（7,545名）であり、全サンプル数の78.0%（77.9%）にあたる。そのうち、前期選抜で合格した学校へ進学した者は、4,392名（4,257名）であり、前期選抜受検者の58.1%（56.4%）にあたる。（（ ）内は補正值。以下同じ。）
- 3 前期・後期ともに受検した者は2,909名（3,020名）であり、前期選抜受検者の38.5%（40.0%）にあたる。そのうち、前期・後期とも同じ学校・学科を受検した者は1,735名（1,748名）であり、前期・後期受検者の59.6%（57.9%）、前期選抜受検者の23.0%（23.2%）にあたる。
前期・後期で違う学校・学科を受検した者は1,174名（1,272名）であり、前期・後期受検者の40.4%（42.1%）、前期選抜受検者の15.5%（16.9%）にあたる。
- 4 前期・後期とも同じ学校・学科を受検した者の割合は59.6%である。
平成27年度受検動向調査の結果61.6%に近い割合といえる。
- 5 前期・後期とも同じ学校・学科を受検した者は、前期・後期とも受検した者の59.6%（57.9%）であるが、第1～3学区の都市部が54.8%（54.7%）に対して、第4～9学区の郡部において66.2%（64.9%）とその割合が高くなっている。
また、前期・後期で違う学校・学科を受検した者は、前期・後期とも受検した者の40.4%（42.1%）であるが、郡部が33.8%（35.1%）に対して、都市部において45.2%（45.3%）とその割合が高くなっている。
- 6 前期・後期とも同じ学校・学科を受検した者は、第8学区において90.7%（89.2%）と特にその割合が高くなっている。
- 7 第5学区において専門学科を受検する生徒の割合が高くなっている。
前期・後期とも同じ学校・学科を受検した者（専門→専門）、全体2.4%（2.2%）に対して17.9%（17.9%）。前期・後期で違う学校・学科を受検した者（専門→専門）、全体1.5%（1.2%）に対して2.1%（2.1%）。

平成27年度受検動向調査の結果分析について

- 1 県内の全公立中学校の3年生1クラスを抽出して調査し、回答を得られたサンプル数は、9,851名分であり、平成27年3月の中学卒業生数51,752名の19.0%にあたる。
なお、各学校1クラスを抽出しての調査のため、学区ごとのサンプル数の割合が、学区ごとの卒業生数の割合と等しくなるよう、サンプルに比率を掛けて算出したものを併せて提示した。
- 2 前期選抜を受検した者は7,784名(7,775名)であり、全サンプル数の79.0%(78.9%)にあたる。そのうち、前期選抜で合格した学校へ進学した者は4,409名(4,313名)であり、前期選抜受検者の56.6%(55.5%)にあたる。()内は補正值。以下同じ。)
- 3 前期・後期ともに受検した者は3,137名(3,239名)であり、前期選抜受検者の40.3%(41.7%)にあたる。そのうち、前期・後期とも同じ学校・学科を受検した者は1,933名(1,952名)であり、前期・後期受検者の61.6%(60.3%)、前期選抜受検者の24.8%(25.1%)にあたる。
前期・後期で違う学校・学科を受検した者は1,204名(1,287名)であり、前期・後期受検者の38.4%(39.7%)、前期選抜受検者の15.5%(16.6%)にあたる。
- 4 前期・後期とも同じ学校・学科を受検した者の割合は61.6%である。
平成25年度アンケート結果の公立中学校長65.7%、公立高等学校長全日制62.7%に近い割合といえる。
- 5 前期・後期とも同じ学校・学科を受検した者は、前期・後期とも受検した者の61.6%(60.3%)であるが、第1～3学区の都市部が56.2%(56.5%)に対して、第4～9学区の郡部において68.9%(68.2%)とその割合が高くなっている。
また、前期・後期で違う学校・学科を受検した者は、前期・後期とも受検した者の38.4%(39.7%)であるが、郡部が31.1%(31.8%)に対して、都市部において43.8%(43.5%)とその割合が高くなっている。
- 6 前期・後期とも同じ学校・学科を受検した者は、第8学区において91.4%(90.7%)と特にその割合が高くなっている。
- 7 第5学区において専門学科を受検する生徒の割合が高くなっている。
前期・後期とも同じ学校・学科を受検した者(専門→専門)、全体8.2%(7.4%)に対して23.3%(23.3%)。前期・後期で違う学校・学科を受検した者(専門→専門)、全体1.8%(1.5%)に対して6.7%(7.0%)。